

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度 第2回社会教育委員会議小委員会		
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286 (直通)		
開催日時	令和4年8月17日(水) 午前10時～正午		
開催場所	相模原市役所 会議室棟2階 第3会議室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	6人(生涯学習課長 外5人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 議題 (1) 研究調査の柱について (2) アンケート調査、ヒアリング調査について ア アンケート調査 イ ヒアリング調査 3 その他		

議 事 の 要 旨

1 あいさつ

生涯学習課長あいさつ

生涯学習課長の進行により、開会のあいさつを行った。

秦野委員長あいさつ

秦野委員長があいさつを行った。

2 議題

秦野委員長の進行により議事が進められた。

(1) 研究調査の柱について

主な意見は次のとおり。

(秦野委員長)

資料1は、これまでの会議で出された意見や前回定例会での皆様の意見を整理して形にしたものである。今後、資料1にまとめた内容を土台に、研究調査を進め、提言としてまとめていく。資料1について、新たに議論するというのではなく、内容の確認や誤りがあればご意見いただきたい。

(古矢委員)

資料1裏面の3本の柱について、3本目の柱のキーワード「情報の共有と往還」の「往還」の意味合いは、情報の共有や行ったり来たりの「往来」ではないか。

次回定例会で、この意見の発言者である小林委員に確認した上で、どちらの言葉が良いか検討したい。

(秦野委員長)

次回定例会で、小林委員に確認した上で、わかりやすい言葉に変えるということではよろしいか。

(全員)

反対意見無し

(古矢委員)

「研究調査の基盤となる理念」について、どのような形で柱に被せていくか、多く書きすぎても良くないが、少なすぎてもこちらの考えが伝わらないと思う。

(秦野委員長)

「研究調査の基盤となる理念」で挙げている言葉は、キーワードや柱に言葉として入ってはいないが根底にあるものとして、皆様で共通認識するということがよろしいか。

これらの言葉を、事例やアンケート結果などを整理してまとめる時に、どこに、どの程度、どのように載せていくかは、次回定例会で皆様と考えていくべきか。

(古矢委員)

本日皆様の考えを伺った上で、次回定例会に持ち込んだ方が良いでしょう。

(小泉委員)

本日の議題の1つである研究調査を進める際には、資料1の内容を意識した上で調査を行い、取りまとめの段階で何らかのキーワードが浮かび上がってくるのではないかと。まずは、調査を進めていく中で考えるということではいかがかと。

(秦野委員長)

研究調査報告書の前段で書いたり、これから実施する各調査結果のコメントをまとめていく時に載せていくということではよろしいかと。

(全員)

反対意見無し

(秦野委員長)

調査集計の際に、柱としてコメントを書く上で、キーワードに触れることを意識する。また、なぜ研究調査を実施するのかというところにこれらの理念を入れ込みながら整理していくということをして次回定例会に諮るといいかと。

(全員) 反対意見無し

(2) アンケート調査、ヒアリング調査について

ア アンケート調査

事務局より資料に基づき説明を行った後、協議した。主な意見は次のとおり。

(秦野委員長)

資料を作成するにあたり事前に事務局と調整を行い、設問「事業内容について」の回答項目の分類を分けたが、分類の見出しは付けず、分野ごとに回答してもらうことで、満遍なく全ての分類の意見を収集できるスタイルとした。見出しを付けた場合、回答者が見出しを見て「関係ない」と判断した分類は読んでもらえなくなると考えたためである。また、前回定例会で意見をいただいた「受講料の無料」に関する記載について、公民館事業への参加は、教材費や材料費等の必要経費を除き、原則無料である。しかし、受講料が無料であるということを知らない市民が多いため、公民館を知らない方にも伝わるよう、調査票の中に記載したいので皆様からアイデアをいただきたい。

(水谷委員)

資料1「研究調査の基盤となる理念」に「人々との多様性の理解と尊重」という言葉があるが、これに対応するアンケートの回答項目は「時事問題や社会問題を解決するもの」に視点として含まれていると認識していいかと。

(秦野委員長)

関連する回答項目としては、「時事問題や社会問題に関わるもの」以外にも、「人

権に関わるもの」や、現代的な課題である SNS でのヘイト等に関連して「コミュニケーションのコツ」にも理念として含まれており、実際の講座内容にはそれらを入れ込むことを念頭に考えていたが、資料にある言葉だけではわかりにくいかもしれない。それがわかるよう質問を足すべきか、意見をいただきたい。

(大谷委員)

まとめ過ぎるとわかりにくくなるため、項目は多い方が良い。この設問では複数回答が可能であり、回答者がより多く選択できるようにしたい。

(秦野委員長)

「多様性の理解の尊重」について回答項目に加えるには、既に項目にある「人権に関わるもの（ジェンダー格差の解消、特定の状況、特徴をもつ人への差別解消）」と区別するにはどのような文言が良いか。

(水谷委員)

多様性の中には、ジェンダー論や、国別・人種別などの文化が違うということ、職業の自由などが含まれていると考える。別の回答項目を立てることも良いが、「人権に関わるもの」の括弧の中に、多様性に関する項目で不足している文言を付け加えても良い。

(秦野委員長)

職業等については「特定の状況」や「特徴を持つ人」の文言の中に含まれると考える。その中に含まれない「文化」については、「多様な文化に触れる」や「多様な文化を理解するもの」など、別の回答項目を立ててはどうか。その場合、国内外の少数民族に関する言葉が括弧の中に入ると思う。「多様な文化を理解する」という別の回答項目を立てるか、既にある「人権に関わるもの」の括弧の中に「多文化」の言葉を入れるか、どちらがよろしいか。

(古矢委員)

「人権に関わるもの」と「地域おこし、活性化に関わるもの」の間に、「多様性の理解に関わるもの」という回答項目を立て、括弧内に「文化、人種の違い」等の言葉を追加すれば、キーワードに挙がっている SDGs と上手く関連すると思う。

(秦野委員長)

「多様性の理解に関するもの(文化、人種、少数民族)」という回答項目を新たに設ける。また、「職業」に関わるものは、「人権に関わるもの(特定の状況)」で補っているということによろしいか。

(全員)

反対意見無し

(小泉委員)

「時事問題や社会を解説するもの」の表現について、他の回答項目の文末では「関わるもの」や「知識を得るもの」など、主語が受講者であることに対し、「解

説するもの」は主語が主催者側であり、文言を揃えた方が良い。

(秦野委員長)

他と統一するため「時事問題や社会問題に関わるもの」としてよろしいか。また、この回答項目だけ括弧内の記載がないがそのままで良いか。時事や社会という言葉から何を連想するか。

(若林委員)

現在戦争が起こっているため、平和についてはどうか。

(秦野委員長)

時事に対するタイムリーな話題ではなく、具体的に「戦争」という言葉を入れるということか。

(古矢委員)

現在、一番脅かされている問題であり、私たちも無縁ではない。

(秦野委員長)

「平和」では、言葉の示す範囲が少し大きいように感じるが、「戦争・紛争」と「平和」では、どちらの言葉が良いか。

(若林委員)

「戦争」は言葉として強烈な印象を感じるため、「平和」が良いと思う。

(秦野委員長)

「経済」を入れても良いと思う。他に加えたい言葉があれば意見いただきたい。

(小泉委員)

言葉が示す範囲が大きくなり過ぎてしまうかもしれないが、研究調査の基盤となる理念の1つにある「SDGs」はどうか。

(秦野委員長)

「SDGs」には、他の回答項目にある「人権」や「多様性の理解」なども含まれてしまう。SDGsの17の目標の中から言葉を拾うことは良いと思うがいかがか。「経済情勢」と別に「貧困」も加えることも良いと思う。

(古矢委員)

「気候変動」や「食」の問題がある。食を表す言葉には「糧」と「料」の2つがあり、通常は穀物を意味する「糧」を使うが、ここでは穀物だけでなく、野菜その他、また広く食事の意味も含めて「食」とした方が良いと考える。

(秦野委員長)

「気候変動」と「食」も、言葉が示す範囲が大きいが、他の回答項目にも言葉の示す範囲に大小あるため、「多様性の理解」の括弧内には「平和」「貧困」「気候変動」「食」を入れるということで良いか。

(水谷委員)

情報の内容について、回答項目「講座の風景」の「講座」は、「催し」に修正し

たい。公民館では講座以外にも様々な事業行われているため、「講座」では言葉が示す範囲が狭くなってしまう。

(秦野委員長)

「講座」を「催し」に修正した方が良いとの意見をいただいた。また、同じ設問内で「講座内容のレベル」という回答項目があるが、こちらも同様に「講座」を「催し」と修正してよろしいか。

(大谷委員)

「レベル」とは、どのような意味か。

(秦野委員長)

初級や中級など、催しの内容の難易度という意味で「レベル」という言葉を使っている。わかりにくければ、「難易度」と修正するか。

(全員)

反対意見無し

(小泉委員)

事業形態の回答項目「好きなときに見ることができる(オンデマンド)の講座」について、「の」が1文字不自然であるため、「好きなときに見ることができる講座」あるいは「好きなときに見ることができるオンデマンドの講座」に修正した方が良い。

(秦野委員長)

ITを利用したという前提があるため、「の」が不自然でないようにするには、括弧を取った方が良いと思うがよろしいか。

(全員)

反対意見無し

(小泉委員)

公民館の認知・利用状況に関する設問「公民館を知っていますか」について、公民館の場所を尋ねているのか、公民館が行う催しについて尋ねているのかがわからないため、尋ねる内容を絞って具体的に書き込んだ方が良い。例えば、「公民館で開催している内容を知っていますか」や、「地域の公民館がどこにあるか知っていますか」などはいかがか。

(大谷委員)

何を尋ねているかわからないため、分けた方が良い。

(小泉委員)

公民館がどのようなことを行っているか、あまり市民に知られてない。

(秦野委員長)

私が教える学生等に尋ねたところ、公民館の場所は知っているが「自分には無縁の謎の建物」と話していたため、所在と、何をやる場所か、どのような機能が

あるかについて設問を分けたい。事務局では、公民館を知っているか市民に尋ねる時、どのようにしているか。

(事務局)

例えば、「公民館での活動をご存じか」などの文言にしている。

(大谷委員)

地域のどこに公民館があるか、意外と知られていないため、場所に関する設問は設けた方がよい。

(秦野委員長)

公民館を知っているかに関する設問は2つに分け、1つは「公民館は市民の皆様が学習したり活動できる場所であることを知っていますか」と尋ねてはどうか。

「公民館の機能を知っているか」では、答えづらいと思う。

(若林委員)

「あなたの地域の公民館はどこにあるか知っていますか」、「公民館でこういう活動をやっていることを知っていますか」というような尋ね方はどうか。

(秦野委員長)

在勤在学の方もいるため、「あなたの住まい」に限定せず、「あなたの地域」としてはどうか。また、文末は「ご存じですか」と他の設問と揃え、「知っていますか」のどちらが良いか。

(若林委員)

「知っていますか」が良い。

(秦野委員長)

1 問目は「あなたの地域の公民館がどこにあるか知っていますか」2 問目は「公民館で行われている活動内容を知っていますか」3 問目は「公民館を利用したことがありますか」とする。3 問目で「あります」と回答する方の中には、公民館の場所も活動内容も知っているが利用したことはないという方もいるかもしれない。「利用」は、自治会の集まりでなどで使ったことがあることか、それとも催しなどに参加したことがあることを聞くのか。

(事務局)

資料 2-2 では、公民館施設の利用に関する設問と、講座等の参加に関する設問を分けて作成している。

(秦野委員長)

利用に関する設問は、既に施設利用と講座参加に分けて作成されているため、設問 5-1 の公民館の認知に関する設問を、場所と内容の2つに分け、設問数を1つ増やすということによろしいか。

(若林委員)

公民館を利用したことがない、講座などに参加したことがないと回答した方に、

その理由を自由記述形式で尋ねたい。

(秦野委員長)

『利用したことがない』と答えた方にお聞きします。利用しない理由は何ですか」というような設問を設けて良いか。「時間が合わない」「興味がない」など、回答者から様々な理由が出ると思う。

(若林委員)

公民館でどのような催しが行われているかの情報は、実際公民館に行かないとなかなか手に入らない。広報さがみはらなどに情報が掲載されることもあるが、若い方達はあまり催しに行こうとしないと思う。

(秦野委員長)

また、「サークルの内容がわからなかった、見つけられなかった」と回答する方もいると思う。ここは自由記述が良いと思うがいかがか。

(大谷委員)

この設問で、回答者の素直な意見を聞けると良い。

(秦野委員長)

利用したことがないことの理由は、施設利用か催し参加かどちらの設問に掛かるか。または、両方の設問に掛かるか。施設は利用するが催しは参加しない方に、その理由を聞きたいところではあるが、皆様はいかがか。両方の設問に対して「利用したことがない方にお聞きします。利用しない理由をお答えください。」と聞き、自由記述としてよろしいか。

(小泉委員)

「お答えください」ではなく「もしよろしければ教えてください」が良い。

(大谷委員)

「お答えください」だと、上から目線で「答えろ」と言われているように回答者は感じるのではないか。

(秦野委員長)

最後の設問は、文末を「利用しない理由を教えてくださいませるか」とする。

(全員)

反対意見無し

(小泉委員)

施設利用及び催し参加の設問について、いつまで遡って回答してもらうか。例えば、30年前に1度利用したことも「利用した」とするのか、あるいは過去1年間の利用の有無を尋ねるのか、設問文に明記した方が良い。

(秦野委員長)

30年前の記憶で回答してもらうことは、調査の目的として妥当であるか。小泉委員から過去1年間との言葉があったが、コロナ禍であることも考えると何年以

内にすることが妥当か。

(大谷委員)

コロナの影響により施設利用の制限等があったため、過去1年間では短い。コロナ禍前まで含むのであれば、5年程度が妥当と考える。

(秦野委員長)

施設利用及び催し参加に関する全ての設問に、「過去5年以内」と記載することとしてよろしいか。

(全員)

反対意見無し

(小泉委員)

設問5-3「学級・講座等に関する公民館主催事業」と、設問5-4「公民館まつり・スポーツ大会等に関する公民館主催事業」は、どのように分けられるのか。例えば、ハイキングに行くような催しは「学級・講座」と認識してよろしいか。

(秦野委員長)

「学級・講座等」は、特定の人数を決めて、事前に申込み、特定の項目を学ぶ催しとし、「公民館まつり・スポーツ大会等」は、申込の有無に限らず、参加できるような催しである。公民館資料159～160ページにある分類表のA～Bが「学級・講座等」、C～Eが「公民館まつり・スポーツ大会等」にあたるが、調査のコンセプトである「公民館を知らないあなた」にこの分類はわからないのではないかと考える。

(事務局)

例えば、「公民館事業」の文言を削除し、「公民館の学級・講座等に参加したことがありますか」、「公民館が実施する、公民館まつり・スポーツ大会等に参加したことがありますか」のように具体名称を入れるのはいかがか。

(大谷委員)

市民へのアンケートであるため、「事業」は削除して良い。

(秦野委員長)

設問の並び順を、参加のハードルが低くより多くの方が参加できる「公民館まつり・スポーツ大会等」の設問を先とし、次に「講座・教室等」としてはどうか。

(若林委員)

誰でも気軽に参加できる「公民館まつり・スポーツ大会等」について先に質問した方が、「参加したことがある」という方も多いのではないかと考える。申込制の「講座・教室等」は、時間が取れず「参加したことがない」という方もいると考える。

(秦野委員長)

施設利用に関する設問について、個人利用と自治会等の会合、サークル活動としての利用では、利用の意味合いが異なると考えるが、設問を分けなくて良いか。

(小泉委員)

それは、今回の調査で聞きたいことと異なると思う。

(事務局)

会議での利用やサークルとしての利用も含め、利用したことがあるか質問するイメージでいたが、一義的にサークル等の団体活動に限定するというのであれば、明記した方が良いと考える。

(秦野委員長)

「公民館の施設を利用したことがありますか」の設問を生かし、「公民館でサークル活動をしたことがありますか」と、「公民館を自身の学習のために利用したことがありますか」というように設問を追加するか。

(大谷委員)

分ける必要があるのか。

(小泉委員)

調査の趣旨からすれば、「サークル等で利用したことがありますか」だけでも良いと思うが、例えば、会議等の会場として利用する場合は調査の趣旨と少し違う。

(秦野委員長)

子ども食堂に来る住民のことも考えると、利用の範囲は広く捉えた方が良い。利用の範囲を広く捉えて施設利用の有無を質問した方が良いか。それとは別に、学習活動による施設利用の有無についても質問した方が良いか整理したい。質問を分けることで、「サークル活動で施設を利用したことはあるが、公民館の催しには参加していない」という状況が見えてくるかと思う。しかし、単に施設利用の有無だけを質問するだけでは、それは見えてこない。

(小泉委員)

サークルの利用状況については、事務局で把握しているため、設問は「利用したことがありますか」だけで良いと思う。

(事務局)

サークルの利用実績や利用人数など、活動の履歴は把握している。

(秦野委員長)

実績というよりも、「サークル活動では施設を利用するが、公民館主催事業には行ったことない」ということもあると思い、提案した。

(若林委員)

活動場所として施設利用しているが、公民館主催事業などには全く興味ないという方が把握できる。

(事務局)

主な調査対象者は公民館を利用したことがない方であるため、会議やサークルの利用も含めて、広く施設利用の有無を質問した方が良いと考える。

(小泉委員)

資料 2-2 には「公民館施設 (部屋)」と書かれているが、子ども食堂などの部屋を利用せずにロビーで行っている場合は、「利用したことがある」に該当するか。

(秦野委員長)

子ども食堂以外にも、部屋を利用するのではなく、施設に配架されているチラシ取りに寄っただけなど、どこまでを「利用したことがある」と考えるか。公民館の存在を知っていて、施設に行っていたことがわかれば良いか。

(小泉委員)

まずは公民館に来てもらい、利用してもらうところがスタートである。その次に、公民館主催事業に参加したかの話になるのではないか。「(部屋)」と記載すると、部屋の利用に限定することとなり、ロビー等の利用が除外されてしまう。

(秦野委員長)

この設問では、部屋に限定せず、建物の中に入ったことがあるかを聞くか。

(小泉委員)

そこから如何にして事業に呼び込むかを今後検討していく上では、部屋に限定しなくて良いと思う。

(秦野委員長)

この設問から「(部屋)」の文言を削除し、「公民館施設を利用したことがありますか。※ただし、図書室を除く」として良いか。

(大谷委員)

なぜ「図書室を除く」のか。

(事務局)

10 年前に実施した公民館の利用に関する調査票から引用したが、今回の調査趣旨と異なるようであれば、削除して構わない。

(秦野委員長)

市の位置付けとしては、公民館図書室は図書館の分室扱いとなるか。

(事務局)

システムネットワークは図書館と繋がっているが、位置付けとしては公民館が持つ機能である。実態としては、図書館の分館というように扱われており、市民の方にもそのように認識されていると思われる。蔵書についても、図書室分も含めて図書館が管理しており、互いの蔵書の貸出が可能であるため、実質分館というような実態がある。

(秦野委員長)

以前、公民館職員であった立場として、市民の方は図書室と公民館を分けて考えており、図書室を「図書館」と呼び、「図書館は行ったことあるが、公民館に行ったことはない」と言う。今回は、「図書室を除く」と記載し、公民館と図書室を

分けて聞いた方が良く考えるが、いかがか。

(全員)

反対意見無し

(秦野委員長)

資料 2-2 の設問 5-2 は「(部屋)」の文言を削除し、「過去 5 年以内に」の文言を追加する。また、設問 5-3、5-4 は、「事業」の文言を削除し、設問の順番を入れ替えることでよろしいか。他に設問等に関する意見がなければ、調査票のタイトルを決めたい。

(小泉委員)

タイトルは、どのような形で市民の目に入るのか。

(事務局)

想定として広報さがみはらでは、記事のタイトルを調査票のタイトルとし、その下に、簡単な説明文と QR コードを掲載することを考えている。

(秦野委員長)

まず、調査票のタイトルに「公民館」を入れるか。「公民館」が入ることで、市民の方に「自分には関係ないこと」と思われてしまってはもったいない。学習に関するアンケートであり、「あなたはどんな学習に興味・関心を持っていますか」「公民館ではこんな催しを行っていますか」というところに持つていくことがアンケートのコンセプトである。しかし、タイトルを「学習意向調査」などにすると固いイメージになってしまう。

「どのようなことを学びたいか、公民館を利用してない人にも答えてもらいたい」ということを表すには、どのようなタイトルが良いか。例えば、主題を「学習に関する調査」、副題を「公民館を利用したことがないあなたにも」とした場合、副題まで広報さがみはらに掲載することは可能か、字数の制限はあるか。

(事務局)

広報さがみはらは、毎月多くの記事を掲載するため、掲載スペースは限られる。その場合、広報さがみはらに副題は載せられないが、地域情報紙や公共施設に配架するチラシ等には、副題を入れる余地はある。

(古矢委員)

タイトルは「楽しめる学びと催しのアンケート」などの柔らかい言葉とし、その後ろに括弧で「公民館」などを入れる。またはタイトルの下に「公民館を利用したことのない方にも、ぜひ書いていただきたい」の副題を入れる等の工夫ができると思う。「学習」などの硬い言葉だと、腰が引けてしまう市民の方もいるのではないか。

(秦野委員長)

「調査」の言葉を使うか、「アンケート」の言葉を使うかによっても、大きく印

象が変わる。

(事務局)

広報さがみはらは、市全体で掲載のルール等が定められているため、具体的な内容がわかりにくい文章の場合、所管課から校正が入ることもある。最終的な調整は、事務局に一任いただきたい。

(秦野委員長)

例えば、古矢委員から意見いただいた「楽しめる学びと催しに関するアンケート」を調査票のタイトルにしても、広報さがみはらに掲載する際には「学習に関するアンケート」のように字数を減らすようなことがあるということか。

(事務局)

今後所管課と調整する中で、字数や表現を変える可能性がある。

(秦野委員長)

広報さがみはらに関する調整は、事務局と所管課にお願いする。正式名称ではないが、委員が配布するためのチラシや機関紙の隅に載せる際に使うタイトルを決める方向で話を進めてよろしいか。

(古矢委員)

相手の懐にスッと入っていけるような文言が良い。「楽しめる」「うれしいな」などの文言の方が訴求力があると思う。

(秦野委員長)

「まなび」の表記は漢字か、ひらがなか。

(古矢委員)

学習の「学」と、ひらがなの「び」。

(小泉委員)

「公民館」ということは匂わせた方が良くと思う。

(水谷委員)

少し字数は増えるが、タイトルの冒頭に入れて「公民館での楽しめる学びと催しに関するアンケート」にしてはどうか。

(秦野委員長)

タイトルに入れると、公民館を利用したことがない方は「自分に関係のないアンケート」と思ってしまうのではないか。

(大谷委員)

古矢委員提案の文言をタイトルとして、副題を「公民館を利用したことがないあなたにも、ぜひ答えてほしいアンケート」にすれば良いと考える。

(秦野委員長)

説明文で「社会教育委員が公民館でのより楽しめる学習や催しを考えていく上で今回の調査を行います」という内容は入れることになる。

(大谷委員)

市民の方に「アンケートやってみよう」と思ってもらえたら良い。

(秦野委員長)

市民の方が、「アンケートに答えたら、これからの自分の学習がもっと楽しめるようになる」というように自分に還元されるものであると思うことができれば、「アンケートをやってみよう」となるのではないか。

(若林委員)

副題は、「利用したことがない」と「知らない」、どちらの優先順位が高いか。

(小泉委員)

公民館を利用してもらいたいため、知ってもらっただけで終わるよりは、「利用」が良い。事務局としては難しいと思うが、「みんなの声で公民館を変えよう」「みんなの声を伝える場にしよう」というスローガンのようなことが書けると良い。

(秦野委員長)

皆様から異論等なかったため、タイトルは「楽しめる学びと催しに関するアンケート」とする。副題は、若林委員からは広く捉えて「知らない」にしてはどうかという意見があり、小泉委員からは「利用したことがない」が良いのではないかという意見が出たが、どちらが良いか。

(大谷委員)

字数に問題がなければ、「知らない」と「利用したことがない」の両方を入れたい。「知らない、利用したことがない」そんな人に答えていただきたい。

(秦野委員長)

副題扱いをせず、「公民館を知らない・利用したことがないあなたに、ぜひ答えてほしいアンケートです。この調査結果は、皆様の公民館での学習に反映したいと社会教育委員会が調査、研究に使うものです。」というように、説明文に並列で書くか。

周知していくものに関しては、タイトルは副題まで入れられるよう事務局で調整し、タイトルに副題まで入らない場合は説明文にする。また、説明文に関しては今の意見を基に、事務局と相談しながら整理させていただくことでよろしいか。

(全員)

反対意見無し

(小泉委員)

資料 2-3 の周知方法について、調査対象者はどこまでを想定しているか。例えば、小学校低学年や外国籍の方も含める場合には、ルビを振ることは可能か。

(秦野委員長)

定例会でも議論したが、調査票には子どもを対象にした設問がないため、周知対象は高校生以上を想定している。ただし、小・中学生でも、保護者宛の案内を

見て「アンケートに答えたい」と興味を持ってくれた場合は拒まないということで、調査票の年齢に関する設問では「10代以下」も回答選択肢に設けている。しかし、外国籍の方にはルビ振りが必要と考える。

(秦野委員長)

ルビ振りができなければ、同じ設問で、通常版とひらがな版で2パターン調査票を作成することは可能か。何かしら配慮ができる方が良いが、システム上の問題や、集計上の問題等もあると思う。可能であれば対応するという事で事務局にお願いしたい。もう少し事務局と調整した上で、社会教育委員皆様に、調査票の案を書面で送付し、内容を確認いただいた上で、10月から調査を実施するという事でよろしいか。

(全員)

反対意見無し

イ ヒアリング調査

事務局より資料に基づき説明を行った後、協議した。主な意見は次のとおり。

(秦野委員長)

ヒアリング調査について、本日は調査の実施方法、調査を実施する公民館、具体的な質問内容について協議し、その結果を素案として11月定例会に諮りたい。はじめに、調査を実施する公民館について協議したい。柱に沿って多様な話が聞けるよう、資料3-2のとおり、公民館の候補を事務局に選出いただいたが、皆様から意見をいただきたい。

(大谷委員)

適格だと思う。

(秦野委員長)

事務局が選出した6館で異論なしということでよろしいか。

(全員)

反対意見無し

(秦野委員長)

候補に挙がっている公民館が実施する事業には色々な特徴がある。今後、具体的な質問内容を検討する際には、公民館資料に記載されている事業内容等も見比べながら考えていけると良い。

次に調査の実施方法について、協議に入る。2人1組で調査を行う場合、7組のペアができる。6組は調査を分担し、残り1組は、万が一調査に行けなくなった方の代わりに行く補佐的な役割としてはどうか。その補佐役として、古矢委員と、公民館の当事者である大谷委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

(全員)

反対意見無し

(秦野委員長)

どのようにペア構成するかは、調査の形式が決まってから、定例会で決めていくということによろしいか。調査をどのような形式や単位で実施するかによっては、ペア構成の仕方が変わると考える。

次に、調査を実施する単位について、3つの方法が考えられる。1つ目は、個別に公民館を訪問して、1人ずつ時間を分けて館長、館長代理、職員に話を聞く。

2つ目は、区単位で1つの会場に集まってもらい、同じ会場の中で互いの声が被らないよう距離を取って2館同時に、職種ごとに時間帯をわけて話を聞く。

3つ目は、6館が1つの会場または2つの会場に集まってもらい、同じ会場の中で互いの声が被らないよう距離を取って、同時に役職ごとで時間帯を分け、話を聞く方法があるが皆様の意見はいかがか。

(大谷委員)

社会教育委員の予定の調整が難しいのではないか。

(秦野委員長)

我々委員の予定調整が難しいと意見をいただいたが、第2案の区単位、あるいは第3案の全体で、1つの会場に時間ごとに公民館職員に来てもらい、話を聞くということによろしいか。

(若林委員)

その場合、公民館職員は、その時間帯に公民館を離れ、市役所等に集まっていたくことは可能か。

(事務局)

行事がなく半日程度であれば、おそらく問題はない。職種ごとに時間差で来てもらうことは難しいと思う。区単位で実施する場合は、1区につき2館に調査を実施するため、同じ区内にあるA館にB館が移動するというのであれば、公民館職員の移動は1館だけで済みむため負担も少なく、調整もしやすくなる。

(秦野委員長)

2館が別の地点に集まるのではなく、例えば、大野南公民館に大野台公民館の職員に来てもらうということか。

(大谷委員)

中央区の横山公民館と星が丘公民館は、距離が近くて移動しやすい。

(秦野委員長)

公民館職員の移動負担も考えると区単位がよろしいか。しかし、緑区の相原公民館と相模湖公民館は距離が遠い。

(事務局)

緑区は、相模湖公民館に相原公民館へ来てもらうことが想定される。

(小泉委員)

相模湖公民館から相原公民館まで来てもらうのであれば、両館に市役所まで来てもらっても職員の負担はあまり変わらないのではないか。

(秦野委員長)

緑区の2館に関しては、市役所周辺に来てもらうことでよろしいか。

(事務局)

緑区に限らず他の区も、市役所周辺に来てもらうことは可能である。

(秦野委員長)

緑区は市役所周辺の会場に来てもらい、中央区と南区はどちらかの館に集まるようにするか。

(小泉委員)

その場合、調査実施者は2人1組でなくても良いのではないか。例えば、3人1組にして、1組ごとに区を担当しても良いと思う。

調査する側の都合ではあるが、その方が2人で実施するよりも心強い。調査実施者3人で、入れ替わりながら各々のやり方で話を聞く利点もあるのではないか。

(若林委員)

1区2館を3人1組で担当する場合、調査実施者は3区で9人いれば良い。

(小泉委員)

調査実施者である我々委員も、各々仕事の都合等によっては調査に行けない場合もあるため、調査に必要な人数は少ない方が良いのではないか。

(秦野委員長)

1区につき、調査実施者3人と、万が一の欠席に備えた補佐役1人、合計4人配置としてはどうか。そうすると、区の補佐者も含め3区を12人で分担でき、全体の補佐役である古矢委員の負担が軽減できる。

(古矢委員)

組としても、全体としても動きやすい体制で良いと思う。

(秦野委員長)

区ごとに3人1組で担当する。また、急な仕事や体調不良に備え、控えの方を各区1人ずつ配置するということがよろしいか。調査の実施方法は、1つの会場に来てもらい、職種ごとに時間差で話を聞く。1人当たり30分を目安に、1館3人に要する時間は1時間30分、全体では3時間と長丁場となることが予想されるがよろしいか。なお、構成メンバーについては、11月定例会で検討して決定する。

(大谷委員)

公民館職員は、午前10時半から正午と午後1時から午後2時半というように、午前と午後で時間を分けた方が動きやすいか。

(事務局)

会場までの移動時間や、昼休憩時間の区切りは配慮いただき、午前9時から正午、午後1時から午後5時の範囲で検討いただければと思う。

(秦野委員長)

午前に1時間半、午後に1時間半とする場合、調査実施者の昼食問題が出てくるがどうするか。事務局で時間の組み方案を作成いただきたい。

(事務局)

中央区と南区は、自所属館で調査を受ける職員は時間の融通が効くと思うが、他の館から来る職員は午後が良い場合もある。1人当たり30分、1館1時間半ということは決めておき、具体的な日時の調整は、実際に調査担当委員が決定してから、委員と公民館の予定を調整した方が良いと考える。

(秦野委員長)

区ごとに、補佐役も含めて調査担当委員の中で予定を調整し、事務局と公民館を含めて、実施日時を決めるということによろしいか。

(全員)

反対意見無し

(秦野委員長)

本日、質問項目についても議論したいと考えていたが、会議時間を超過しているため、10月開催予定の小委員会で議論し、11月定例会に提案することにしたいと思う。次回小委員会までに「こんなことを聞いてみたらどうか」ということを少し考えてきていただきたい。意見を口頭ではなく、紙で皆様に見ていただきたい方は、簡単な資料を作って、事前に事務局へ提出してもらいたい。事務局は、事前に提出された資料を印刷し、次回小委員会で配布できるよう依頼する。

(水谷委員)

公民館ごとに特徴があるということだが、質問項目は、公民館ごとに異なるか。

(秦野委員長)

公民館ごとに異なる質問事項もあれば、全館に聞かなければならない質問項目も出てくると思う。例えば、廃止された連絡所がある公民館には、そのフリースペースの活用について聞いたり、子ども・若者に向けて力を入れている公民館には、そのことを少し掘り下げて聞くなど、個別に聞く内容を絞るべきである。まずは全館にこれだけは聞かないといけないという質問事項を皆様と相談したい。

(古矢委員)

公民館職員に聞き取りする際の共通事項として、「地域づくり」「人づくり」「つながりづくり」に関して質問の根底に置きながら、「公民館職員がどのような思いを抱えて事業等を行っているか」を、職種ごとに話を引き出せると良い。

大野台公民館であれば、廃止された連絡所のフリースペースを「どんな居場所

にされる予定か」「なぜ、そのような発想をしたのか」。子ども・若者に向けて力を入れている公民館には、「地域講座はどのような形で実施されているか」「講座の狙いは何か」などの聞き方ができる。

(秦野委員長)

そのあたりを柱と見比べつつ、全体にはこのような聞き方をしたいというアイディアを、次回の小委員会に持ち寄っていただきたい。また、円滑に協議を進めるため、古矢委員から意見があったように、具体的な問い掛けまで考えていただけるとなお良い。

まとめ

1 アンケート調査について

(1) タイトルと副題を以下のとおり決定した。

タイトル：楽しめる学びと催しに関するアンケート

副題：公民館を知らない・利用したことのないあなたにも、ぜひ答えてほしいアンケート

(2) 調査票のリード文等については、事務局、議長と委員長で調整する。

2 ヒアリング調査について

(1) 調査実施者は、各区3人1組で担当するとともに、そのほかに事故等に備えた補佐を1人決める。

(2) 実施形式は、1つの会場に時間差で公民館職員を集め、1人ずつ聞き取りを行う。

3 次回小委員会について

ヒアリング調査の具体的な質問内容を協議し、11月定例会に諮る。

秦野委員長のあいさつにより、会議を終了した。

以上

令和4年度 第2回社会教育委員会議小委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小泉 勇	相模原市立田名小学校長		出席
2	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会会長	副委員長	出席
3	若林 由美	一般社団法人星と虹色な子どもたち 相模原支部役員		出席
4	秦野 玲子	RE Learning代表	委員長	出席
5	古矢 鉄矢	北里研究所参与		出席
6	水谷 英正	公募		出席
7	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 相模原市子ども・若者自立サポート 事業総括		欠席